

NEWS交差点

本社記者・広島報告

広島と長崎に原爆が投下され、終戦を迎えてから15日で73年。全国の被爆者の平均年齢は2018年3月現在で82・06歳に達し、惨禍の記憶の風化が懸念されている。被爆地・広島で被害の実態を掘り起こして記録し、次世代に伝えていこうと奮闘する人たちの取り組みを追った。

(社会部・岩下勝哉)

爆心地から8キロ 似島 臨時の野戦病院



被爆者の遺骨が出土した現場を訪れる藤礼文さん 11日、広島市の似島

地中に眠る遺骨 惨禍を今に



2018年4月に似島で発掘された骨や頭蓋骨の一部などの遺骨。手前5点。奥の3点は、14年に見つかったくしや硬貨などの遺品



戦後73年 広島大・嘉陽さん発掘調査

原爆投下直後、多数の負傷者が搬送された広島沖の似島(のしま)。2018年4月に広島大研究員の嘉陽礼文(かやう れぶん)さん(40)が行った発掘調査で、100個超の被爆者の骨片が見つかった。似島は爆心地から南に約8キロの広島湾に浮かぶ。島内にあった検疫所が、臨時の野戦病院になった。1万人ともされる原爆の負傷者が対岸から次々に運ばれた。半数以上が死亡し、火葬できずに埋葬された遺体も多かったという。戦後間もなく島民らが約2千体を発掘、広島市が1971・2004年に行った3回の調査でさらに700体分の遺骨を発見した。嘉陽さんは18年の調査で人骨を見つけ、鑑定で「被爆者の骨とみられる」と判明した。

原爆投下から時間が経過して風化が叫ばれる一方、若年世代では核兵器を否定的に捉える人が増えているように思う。ICANも、民衆の思いが各国を動かした事例だ。今後、日本人の平和意識が試される。機運の高まりに期待したい。



嘉陽礼文さん(40歳) 5年10月、17年2月に似島で暮らした。 臨海少年自然の家にある資料室や、慰霊碑などが戦争の歴史を伝える。島に多くの被爆者が搬送された記憶は島民に引き継がれている。現在、沼津市内で工房を構え、似島産のミカンやレモンなどを使ったせつげんを製造販売している。広島県外で似島を知る人はほとんどいないが、静岡県の人も島の歴史を知ってほしい。

高齢化が進む被爆者の記憶を継承するため、広島では被爆体験を語り継ぐ伝承者を養成する動きが広がる。静岡文化芸術大を卒業後、広島大学院で国際協力を研究する水谷桃子さん(23)は、15歳で被爆した在日韓国人2世の李鍾根(イ・ジョンゴン)さん(90)＝広島市安佐南区＝の体験を伝承。「若者が原爆や平和を考える機会をつくることができれば」と意気込む。水谷さんは同大3年の時、都内の学生団体が広島市で開いたイベントに参加。多くの在日韓国人が犠牲になった歴史や、被爆体験伝承者を育てるプログラムの存在を知った。「原爆と平和についてもっと学びたい」と広島大学院に進み、2017年度から伝承講座を受講する。水谷さんは来春、都内の旅行会社に就職予定。「負の遺産」を巡るダークツーリズムに興味を抱く。就職後も広島に通い、伝承者認定も目指す。「広島以外の地域では、原爆への関心の低さを感じる」と水谷さん。「若い人たちの平和への意識を高めるため、何ができるか考え続けたい」と話す。

広島で被爆体験伝承

静岡文化芸術大 水谷さん



李鍾根さん(左端)の被爆体験伝承に取り組む水谷桃子さん(右端) 11日、広島市中区

欧米観光客、年々増加

平和への関心高まり



折り鶴を手に、原爆の子の像の前で記念写真を撮る外国人観光客＝7月29日、広島市中区

欧米各国から広島市を訪れる旅行者が増えている。同市は、オバマ前米大統領の広島訪問や核兵器廃絶国際キャンペーン「ICAN」のノーベル賞受賞などに伴う平和への関心の高まりが背景にあるとみている。同市の外国人観光客は2012年の36・3万人から年々増加。17年は152万人と5年で約4・2倍になった。16年の内訳は欧米49・2％、アジア37・6％で、アジア圏の訪日客が目立つ全国的な傾向と異なる。同市などは海外発信の好機と捉え、平和関連施設を巡る外国人観光客向けの「ピースツーリズム」の推進に注力する。被爆跡が残る建物や複数の資料館などを巡るコース設計を進めている。

元広島市長 平岡 敬氏



オバマ前米大統領の広島訪問賞、米朝首脳会談など、国際社会では非核化に向けた流れがある。核兵器廃絶国際キャンペーン「ICAN」の一員進んでいるように見える。「ICAN」のノーベル平和賞受ただ米国の意思を含め、動き「つ側」と「持たない側」のせめ

試される日本人の意識

ひらおか・たかし 1997年、大阪生まれ。早大卒業後、中国新聞社入社。同社編集長や中国放送社長を歴任。91年に広島市長に初選し、2期8年務めた。在任中、原爆ドームの世界遺産登録に尽力した。退任後も核実験被害者の支援活動続ける。

き合い。唯一の戦争被爆国である日本は活動の先頭に立つべき。「核の傘」に頼って核兵器禁止条約に参加しなかったのは残念だ。核で守られている平和は、本当の平和ではない。原爆投下から時間が経過して風化が叫ばれる一方、若年世代では核兵器を否定的に捉える人が増えているように思う。ICANも、民衆の思いが各国を動かした事例だ。今後、日本人の平和意識が試される。機運の高まりに期待したい。